

様式1

平成28年度 学校評価表

学校教育目標	「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」		
a ミッション	生徒に確かな学力、豊かな心を育む、活力のある学校の創造	a ビジョン	○生徒自身と社会を豊かにする力を培う学校 ○生徒に確かな学力をつけることで、保護者・地域から信頼される学校 ○生徒と教職員が、目標に向かって共に輝き思いやりや感動のある学校

尾道市立日比崎中学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上 課題を発見し解決できる確かな学力を育成する	主体的な学びを促す探究学習の創造	各教科領域の授業における日比崎中探究学習スタイルづくり	各教員による探究学習事例の開発数 探究授業満足度【生徒アンケート】	年2事例以上(合計30事例以上) 85%	前期5事例 92%	後期21事例計26事例 87% 89%	89%	B	・探究授業では、探究学習をテーマとした事例開発を進めることができた。一人ですべて作成した例もある。(二学期は4事例の開発を計画している。) ・探究授業そのもののアンケートは実施していないが、探究学習を含めた全体の授業満足度は平均89%であり、目標値を上回ることが出来た。 ・教科によっては目標達成できていないものもある。(1年生：国語81%、数学76%、理科66%、美術77%)	2			・教員のスキルアップの取組に感謝します。 ・トップイメージの持てる授業を参観して授業研究をすることで授業が変わり、生徒も楽しく授業が受けられると思う。 ・示範授業による授業改善を継続していただきたい。	・実践事例資料集の作成を次年度も継続する。 ・「何ができるようになるのか?」「何を学ぶのか?」「どのように学ぶのか?」の視点で授業改善に取り組み、学びの過程を質的に高めていく。
	各種調査の平均通過率の向上	探究学習の推進 繰り返し学習の徹底	平均通過率【市標準学力調査】 【「基礎・基本」定着状況調査】 【全国学力・学習状況調査】	対比110%	107% 108% 107%	—	97%	B	・改善計画をもとに、各教科で通過率の低い設問に再度取り組ませている。3年生は希望者放課後学習会、2年生は個別に補習に取り組んでいる。1年生は三学期から帰りのHRでのドリル学習を行う。	2			・「進学」を含めた「生きる」ための学力・コミュニケーション能力の向上が望む。 ・通過率の低い生徒に対して対策をしていただきたい。	・通過率・正答率が50%以下の生徒に対しては補習を実施する。全体では、授業での「ふりかえり」を生かし、家庭学習の定着を目指す。
	検定等への挑戦	英語検定等へ挑戦させる取組	卒業時の英検3級合格者の割合	50%	26%	44%		B	・12月現在の3級以上合格者は48人である。	2			・合格対策教室を継続していただきたい。	・後期の検定に参加を呼びかけるとともに、放課後の合格対策教室を継続する。
豊かな心の育成	道徳教育の推進	日比崎中道徳授業スタイルでの授業実施 生徒マナー向上(時を守り・場を清め・礼を正す)	授業満足度【生徒アンケート】 生活実態調査【生徒アンケート】	85% 85%	89% 95%	83% 96%	100%	A	・示範授業で研修し、授業改善を進めたが、1,3年生で目標を下回った。(1年生90%→79%、3年生84%→79%) ・「授業態度はきちんとしている」と答えた生徒が、2,3年生では97%以上であったが、1年生では88%である。	2			・「学力」と「コミュニケーション能力」のバランスをとれた生徒の育成を期待する。 ・わくわくような道徳の授業を目指してほしい。	・示範授業を継続し、全教員がトップイメージをもち、日比崎中道徳授業スタイルを確立し、道徳の時間を充実させ、心の教育を推進する。 ・班長会議を定例化し、学級内での生徒の自治能力を高め、授業規律を正していく。
	集団づくりの推進	学級経営の充実 委員会活動・学校行事・市内体験行事におけるリーダーの育成	学級満足度【生徒アンケート】 学校生活満足度【生徒アンケート】	85% 85%	86% 95%	89% 93%	100%	A	・2,3年生は96%の生徒が「クラスは居心地が良い」と回答しているが、1年生は79%となっている。 ・全体の93%の生徒が、「生徒会などの委員会や係活動に意欲的に取り組んでいる」と回答している。二学期に各委員会で、新たな活動に取り組んだが、数値には変化はみられない。	2			・生徒に向き合うことで、学級がつくれ、クラスに居場所がもてることは大切な事である。	・個人面談の実施や休憩時間に生徒の話聞くなどの機会を設け、生徒と教師の信頼関係をつくる。 ・各専門部の新たな取組(キャンペーン活動)の効果高めるために、年間計画を見直すとともに、各専門部の担当教員が専門委員長をリーダーとして指導する。
	部活動への積極的な参加	毎日の教職員による部活指導の実施	部活動の満足度【生徒アンケート】 市内大会3位以上に入賞できた部活動の数	85% 3部	90% 3部	90% 1部	100%	A	・「部活動に毎日参加している」と回答した生徒が、1年生88%、2年生93%であった。また「部活動に一生懸命取り組み、充実している」と回答した生徒が、1年生94%、2年生88%であり、前期と比べて変化はみられない。 ・後期において市内大会3位以上に入賞できた部活動は、1部で前期よりも減少している。	2			・声かけを継続してほしい。	・部活動において、一人一人が自分の役割を自覚し、責任を持って役割を果たすことができるように、役割分担を明確にし、指導する。など) ・新体力テストの平均値が、県・全国平均値よりも低いため、体育の授業や運動部活動で体力向上を図る。
信頼される学校	教職員の資質向上	示範授業のある研修会開催 教育センター、公開研究会への参加	教職員研修満足度【教職員アンケート】	85%	97%	98%	100%	A	・道徳の示範授業を実施し、外部参加者の満足度は98%であり、本校の授業公開参加者の満足度も98%であった。 ・三学期も理科の探究学習について示範授業を計画している。	2			・研修会での情報交換を大切にしてほしい。	・次年度も日比崎中探究学習スタイルづくりに取り組み、生徒の主体的な学びを促す。
	小中連携の強化	教職員交流の実施 児童生徒交流の実施 英語活動の共通化	小中教職員による相互交流 交流行事実施回数 英語授業交流の実施回数	毎月1回 年3回 年3回	前期2回 0回 2回	後期5回42% 1回33% 1回33%	36%	D	・小学校の中学校探究授業への参加があり、協議会において意見交流ができた。夏季休業中に研究主任同士の連携ができた。三学期に授業のゲストティーチャーとして小学校栄養教諭を招聘する。 ・三学期は小学校1,2年生へ1年生が読み語りをを行う。 ・三学期に英語科が小学校へスピーチコンテストの審査員で授業に参加する。	2			・継続した取組を期待している。	・主任、主事同士の連携を定期的に行う。
	保護者地域からの信頼向上	学校行事への招待・学校だより、学年通信、学級通信の定期発行及びHPの定期更新 ふるさと学習の推進	保護者地域満足度【保護者地域アンケート】 イングリッシュボランティア・ガイドの実施	85% 年3回	84% 前期1回	84% 後期3回	99%	B	・保護者の理解・信頼度は、全体で84%であり前期と変わらない。 ・3年生を中心にイングリッシュボランティアガイドの取組を行い、尾道に対する理解を深めることができた。	2			・学校での悩みを先生に相談できることが大切であり、その信頼関係を築いてほしい。	・生徒指導資料(アセス)やスクールカウンセラーによる生徒理解研修などを活用し、いじめ防止や生徒理解についてのスキルを高める。

【自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80

B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。